首都圏就活生の企業選びに関する意識調査2026
＜詳細版＞

就活生の65%が「理想の働き方はハイブリッドワーク」と回答、生成AI利用は8割

2026年3月12日

ザイマックス総研

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

調査概要

少子高齢社会の日本において、企業が若い労働力を獲得することの重要性と難易度は増している。若年層に選ばれるための第一歩はその価値観や志向を知ることだが、コロナ禍による社会変革を目の当たりにした現代の就活生は、就職先企業を選ぶ際の行動や価値観が旧世代とは異なるのではないだろうか。

ザイマックス総研では2016年から「オフィスワーカー調査」を過去10回実施し、2024年には初めて「就活生」を対象にした調査を実施した。本レポートは、2025年12月から2026年1月にかけて実施した第2回就活生調査の結果をまとめたものである。「ワーカー予備軍」ともいえる就活生らの企業選びにおける行動や価値観を知ることで、若手人材を求める企業に対してヒントを提示したい。

調査期間	2025年12月26日～2026年1月6日
調査対象	就活の状況が「就職先が決定して、就職活動を終了した」か「現在、就職活動中」または「これから就職活動を始める予定」である、首都圏在住の大学3年生から大学院生 ※対象大学：首都圏所在の大学（慶應義塾大学、上智大学、東京大学、東京外国語大学、東京科学大学、筑波大学、一橋大学、横浜国立大学、早稲田大学、その他）計39校と、首都圏所在の大学院
サンプル数	実回収数300件、ウェイトバック後の回答者数300件 ※経年比較の条件を揃えるため、2024年に実施した同調査の構成比（年齢2区分×就活状況2区分）に準拠してウェイトバック集計を実施。極端なウェイトが発生しないよう、以下のとおり区分を統合した。 ● 年齢2区分：23歳以下／24歳以上 ● 就活状況2区分：「就職先が決定して、就職活動を終了した」／「現在、就職活動中」と「これから就職活動を始める予定」
調査方法	インターネット調査

回答者属性

		WB後構成比			WB後構成比
年齢	20歳	8.2%	居住地	東京都	51.5%
	21歳	20.6%		神奈川県	21.6%
	22歳	33.9%		埼玉県	11.6%
	23歳	20.5%		千葉県	7.1%
	24歳	4.2%		茨城県	3.2%
	25歳	8.1%		群馬県	2.3%
	26歳	4.5%		栃木県	1.3%
学年	大学3年	28.5%		山梨県	1.2%
	大学4年以上	65.8%	文理選択	文系	73.4%
	大学院 修士課程2年以上	4.7%		理系	26.1%
	大学院 博士課程2年以上	1.0%		その他	0.5%
性別	男性	32.9%	就活の状況	就職先が決定して、就職活動を終了した	51.9%
	女性	67.1%		現在、就職活動中	31.6%
				これから就職活動を始める予定	16.5%

レポート内のグラフに関して：構成比（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため内訳の合計が100%にならない場合がある。

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

主な調査結果

1.　就活生の企業選びの傾向と価値観（P.5～）

- 就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件では、「給与や待遇」（74.5%）や「仕事内容」（58.8%）が上位となった。
- 就職活動で企業を選ぶ際、テレワークができることを「（やや）重視する」と回答した人は53.0%で、「（あまり）重視しない」（22.9%）を上回った。
- 理想に最も近い働き方を聞いた結果、「ハイブリッドワーク（オフィス出社とテレワークの両方を使い分けて働く）」を選択した人が64.6%と最多であった。
- 73.0%が、従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことは魅力的だと思う（または「ややそう思う」）と回答した。
- オフィスの条件では、「自宅から近く通勤時間が短いエリア（郊外・住宅地など）に立地している」を「（やや）重視する」と回答した人が最も多く、「交通利便性が高い都心のオフィス街に立地している」を上回った。
- 就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策では、「フレックスタイム制度」（50.0%）や「在宅勤務手当（備品や光熱費等）」（35.8%）、「週休3日制」（32.6%）が上位となった。
- 企業選びにあたって不安に感じていることでは、「配属先や上司によって働き方の柔軟性に差があるのではないか（配属ガチャ）」が37.9%と最も高かった。2024調査と比べると全体的に低下傾向がみられたものの、「テレワークでできる仕事でも毎日出社を求められないか」（29.1%）のみ増加した。
- 働くことに対する意識や価値観について、「仕事よりもプライベートを重視する」を選択した人は54.7%に上り、相対する「プライベートよりも仕事を重視する」（26.2%）の2倍以上となった。

2.　生成AIの影響と仕事観（P.13～）

- 生成AIを一定の頻度で（ほぼ毎日～月に数回程度）利用している割合は合計81.7%に上った。
- 生成AIの利用頻度が高い就活生ほど、テレワークやサテライトオフィスを重視しており、就職活動で企業を選ぶ際により多くの条件を重視する傾向や、さまざまな働き方の施策を求めている傾向がみられた。また、企業選びにあたって不安に感じている項目も多い傾向がみられた。
- 就職後、DX化（生成AI活用やロボット導入など）による自身の仕事やキャリアへの影響が「（やや）あると思う」と回答した割合は72.2%であった。この割合は、生成AIの利用頻度が高いグループほど高い傾向がみられた。
- 将来的にノンデスクワークに従事することに「（やや）興味がある」と回答した割合は50.8%であった。

3.　＜資料編①＞男女別による特徴（P.22～）

4.　＜資料編②＞文理選択別による特徴（P.26～）

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

1. 就活生の企業選びの傾向と価値観

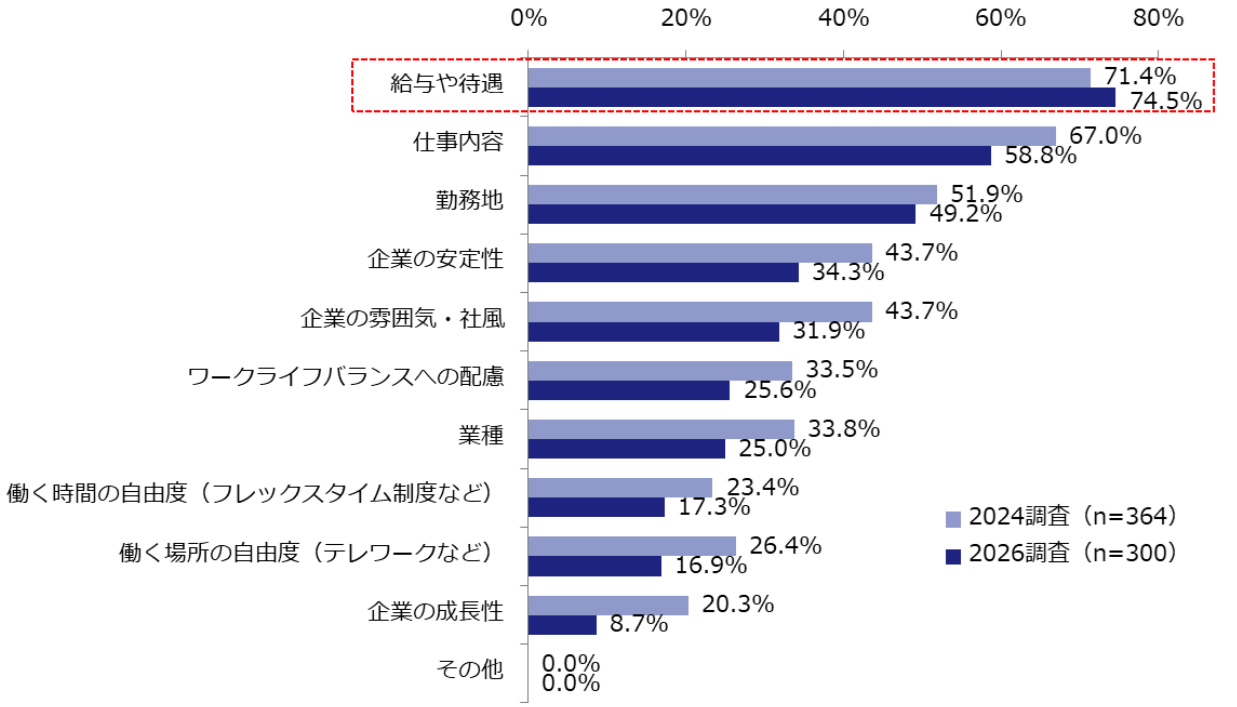
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

企業選びの条件では「給与や待遇」の重視度が2年前より増加

就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件を複数の選択肢から選んでもらった結果、「給与や待遇」（74.5%）や「仕事内容」（58.8%）が上位となった【図表1】。

2024調査と比較すると、1位の「給与や待遇」のみ回答割合が増加し、他の項目は減少した。近年では物価上昇や人手不足を背景に、企業の初任給上昇が報じられており、就職活動の際にも給与が強く意識されたと考えられる。

【図表1】就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



集計対象：全体／複数回答

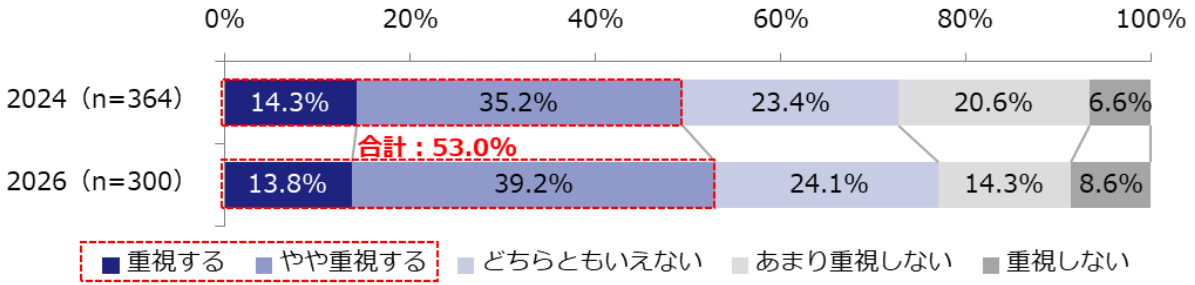
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

企業選びでは過半数の就活生が「テレワークができること」を重視

就職活動で企業を選ぶ際、テレワークができることを重視するか聞いた結果、53.0%が「重視する（*1）」と回答し、「重視しない（*2）」（22.9%）を上回った【図表2】。

*1 「重視する」と「やや重視する」の合計
*2 「重視しない」と「あまり重視しない」の合計

【図表2】就職先を選ぶ際のテレワーク重視度



集計対象：全体

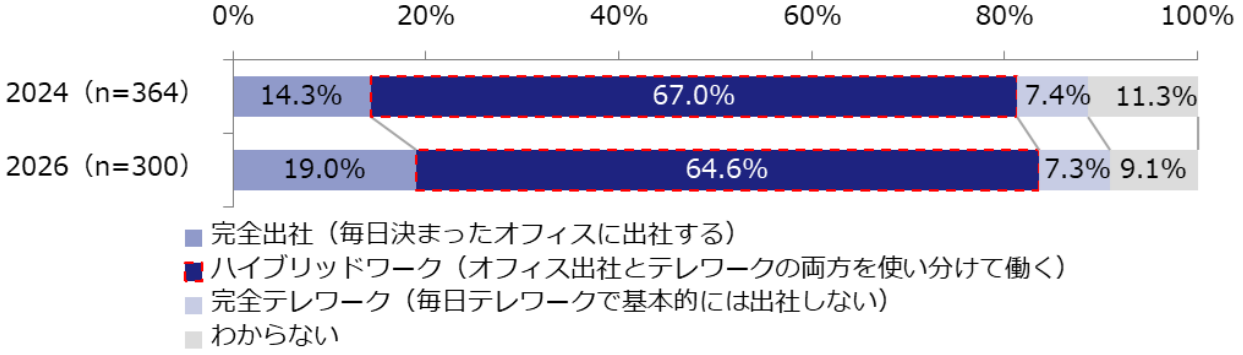
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

就活生の64.6%が「理想の働き方はハイブリッドワーク」と回答

「完全出社（毎日決まったオフィスに出社する）」、「ハイブリッドワーク（オフィス出社とテレワークの両方を使い分けて働く）」、「完全テレワーク（毎日テレワークで基本的には出社しない）」という3種類の働き方から理想に最も近いものを聞いた結果、「ハイブリッドワーク」を選択した人が64.6%と最多であった【図表3】。

これに対し、「完全出社」（19.0%）と「完全テレワーク」（7.3%）は少数派であることがわかった。ただし、「完全出社」は2024調査（14.3%）から4.7ポイント増加している。

【図表3】理想の働き方



集計対象：全体

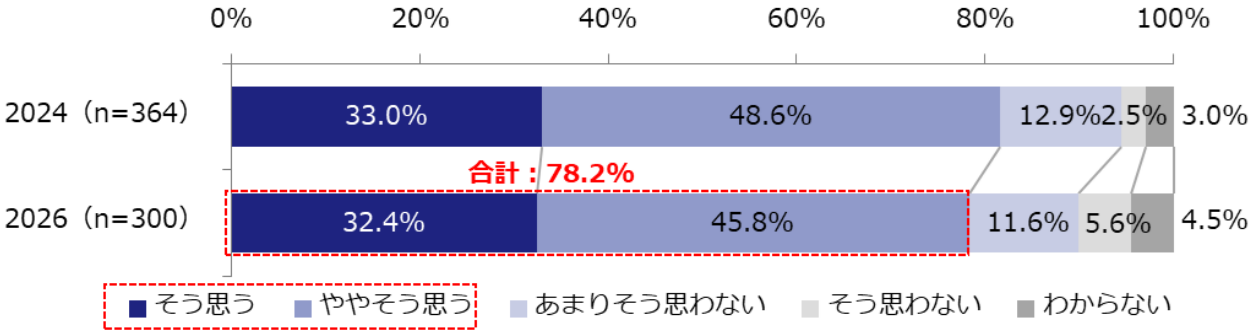
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

約8割の就活生が、「サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことは魅力的」と回答

テレワークを導入するにあたり、在宅勤務だけでなく、法人向けサテライトオフィスサービスなどを契約する企業は増加傾向にある。

そこで、サテライトオフィスやシェアオフィスといったテレワーク拠点サービスの説明をしたうえで、従業員のためにサテライトオフィスなどのテレワークする場所を用意している企業で働くことは魅力的だと思うかどうかを聞いた結果、78.2%が「（やや）そう思う」と回答した【図表4】。

【図表4】サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合



集計対象：全体

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

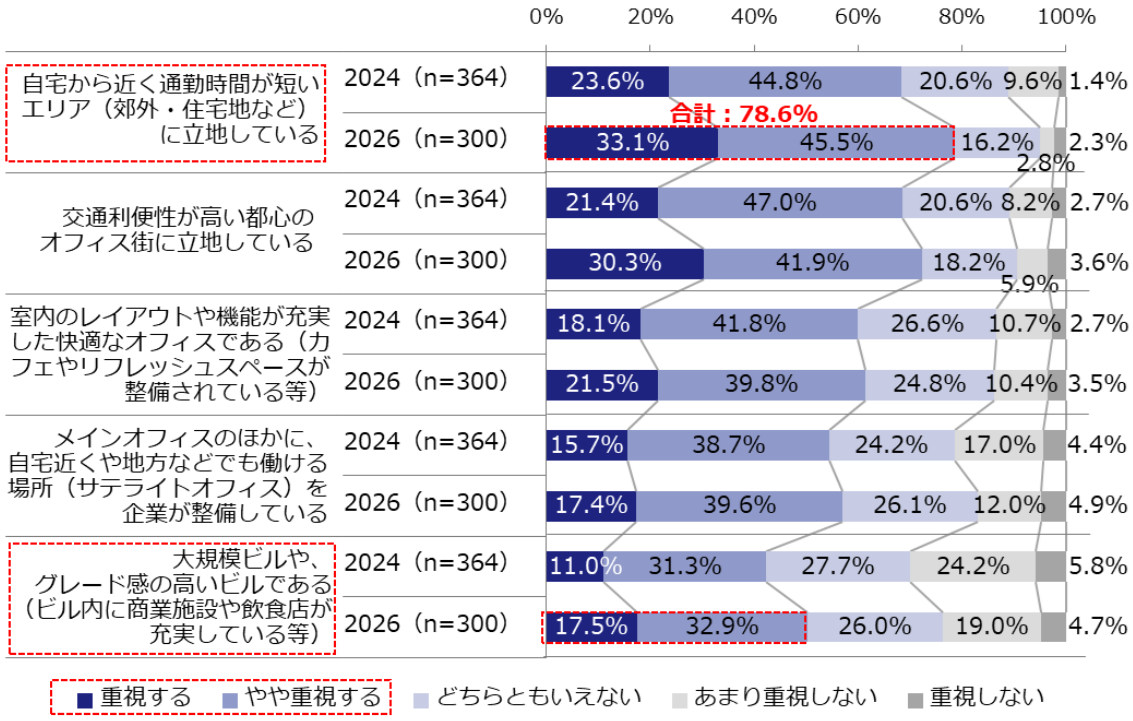
オフィスの条件で重視すること:「自宅から近く通勤時間が短いエリア」が最多、2024調査から増加

企業選びにおいて、オフィスのさまざまな条件をどの程度重視するかを聞いた【図表5】。

「（やや）重視する」の割合が最も高かったのは「自宅から近く通勤時間が短いエリア（郊外・住宅地など）に立地している」（78.6%）で、「交通利便性が高い都心のオフィス街に立地している」（72.2%）を上回った。いわゆる「タイパ」志向の若年層にとって、長時間通勤への忌避感は従来の世代よりも強い可能性がある。

また、2024調査と比較すると、「自宅から近く通勤時間が短いエリア（郊外・住宅地など）に立地している」と「大規模ビルや、グレード感の高いビルである（ビル内に商業施設や飲食店が充実している等）」（50.4%）の2項目が比較的大きく増加した。

【図表5】オフィスの条件で重視すること



集計対象：全体

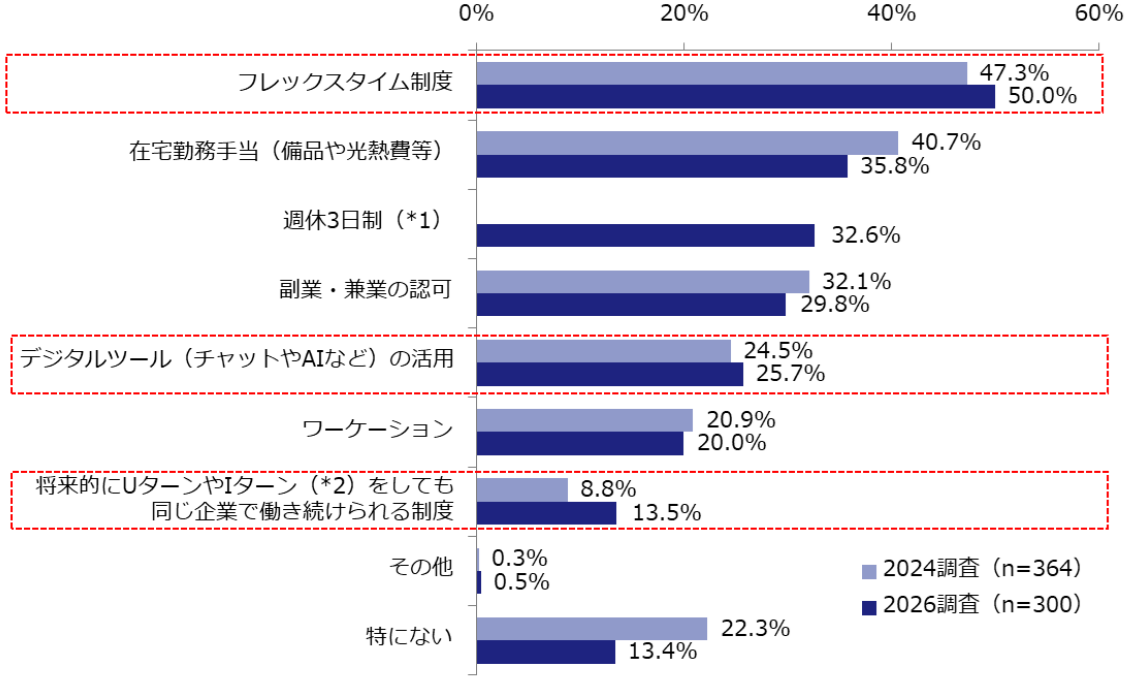
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

働き方の施策では「フレックスタイム制度」や「在宅勤務手当」、「週休3日制」へのニーズが高い

就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策では、「フレックスタイム制度」（50.0%）や「在宅勤務手当（備品や光熱費等）」（35.8%）、「週休3日制」（32.6%）が上位となった【図表6】。

また、2024調査と比較すると、増加がみられたのは「フレックスタイム制度」のほか、「デジタルツール（チャットやAIなど）の活用」（25.3%）や「将来的にUターンやIターン（*2）をしても同じ企業で働き続けられる制度」（12.3%）であった。

【図表6】就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策



集計対象：全体／複数回答
*1 2024調査では選択肢なし
*2 Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

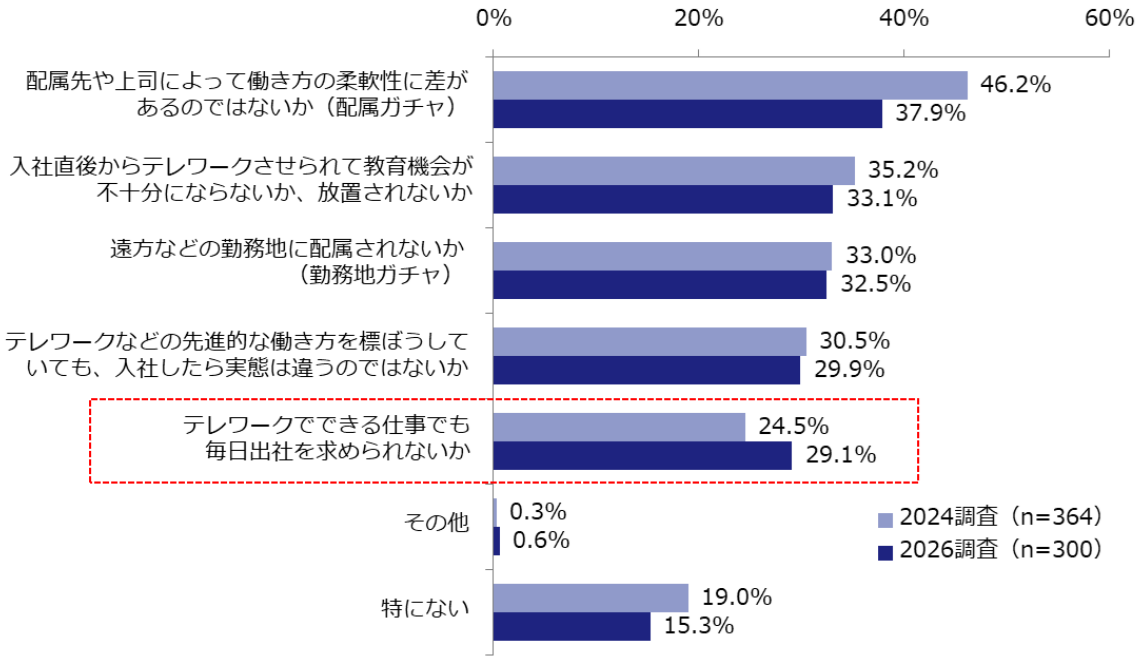
不安の1位は「配属ガチャ」、「テレワークでできる仕事でも毎日出社を求められないか」は増加

テレワークなどの新しい働き方が広がるなか、企業選びにあたって不安に感じていることでは、「配属先や上司によって働き方の柔軟性に差があるのではないか（配属ガチャ）」が37.9%と最も高かった【図表7】。

ただし、2024調査と比べると同項目の回答割合は減少しており、他の不安項目についても全体的に低下傾向がみられた。新卒採用の売り手市場が続くなかで、就職活動そのものに対する不安感は相対的に和らいでいる可能性がある。一方で、「テレワークでできる仕事でも毎日出社を求められないか」は29.1%と、前回調査を上回った。

これらの結果から、若年層はテレワーク（ハイブリッドワーク）の利用意向が高い一方で、単に出社を避けたいわけではなく、仕事内容や状況に応じて適切に出社とテレワークを使い分けられる環境を求めていると考えられる。

【図表7】企業選びにあたって不安に感じていること



集計対象：全体／複数回答

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

「仕事よりもプライベートを重視する」と「同じ地域に住み続けたい」が5割超

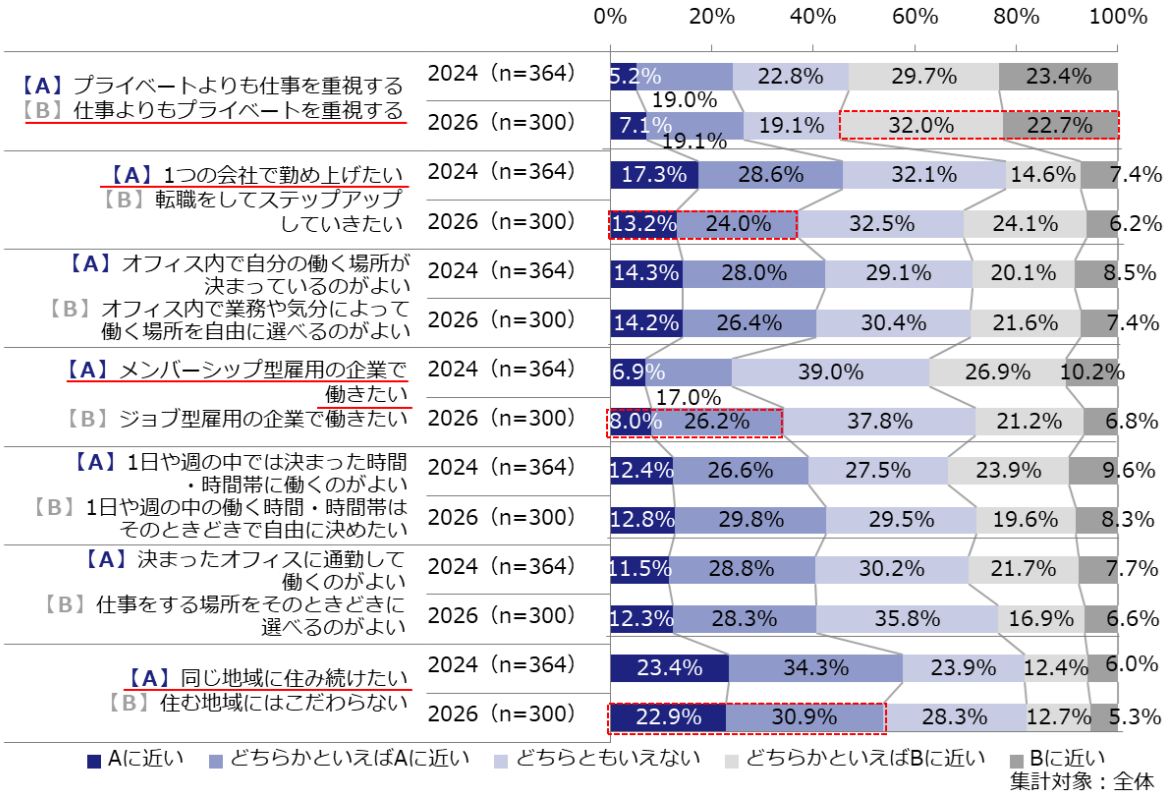
働くことに対する意識や価値観について、【A】と【B】どちらの選択肢に近いかを5段階尺度で回答してもらった結果が【図表8】である。【A】と比較すると【B】の方がより柔軟な志向となっている。

「Bに近い（どちらかといえばBに近い）」の合計割合が最も高かったのは「仕事よりもプライベートを重視する」（54.7%）で、相対する「プライベートよりも仕事を重視する」（26.2%）の約2倍となった。

逆に、より保守的・固定的といえる【A】を選択した合計割合が最も高かったのは「同じ地域に住み続けたい」（53.8%）で、相対する「住む地域にはこだわらない」（18.0%）を大きく上回った。

また、2024調査と比べると、「1つの会社で勤め上げたい」の減少（45.9%→37.2%）や、「メンバーシップ型雇用の企業で働きたい」の増加（25.9%→34.2%）など、雇用に対する意識の変化が見受けられる。

【図表8】働くことに対する意識や価値観



© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

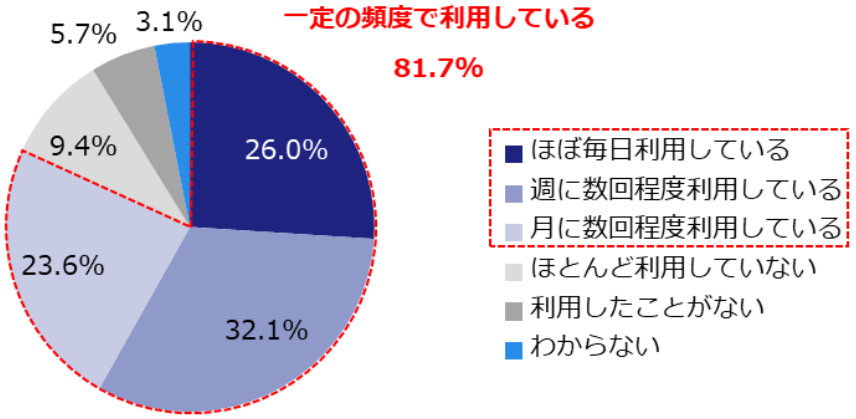
2. 生成AIの利用状況と仕事観

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

8割超の就活生が生成AIを一定の頻度で利用。「ほぼ毎日利用している」も26.0%

普段の生成AIの利用状況を聞いた結果、「ほぼ毎日利用している」「週に数回程度利用している」「月に数回程度利用している」のいずれかと回答した割合は合計81.7%となった【図表9】。

【図表9】生成AIの利用状況



集計対象：全体（n=300）

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

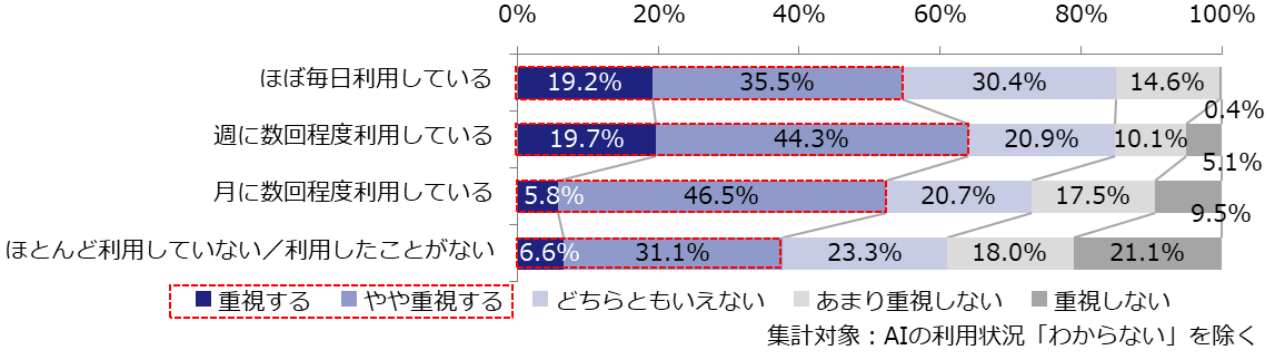
生成AIの利用頻度が高い就活生ほど、テレワークやサテライトオフィスを重視

生成AIの利用状況（【図表9】）別に、就職先を選ぶ際のテレワーク重視度を比較したところ、利用頻度が低い層と比べて、利用頻度が高い層では「（やや）重視する」の割合が高い傾向がみられた【図表10】。

同様に、サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合を比較したところ、こちらも利用頻度が高いグループほど「（やや）そう思う」の割合が高い傾向がみられた【図表11】。

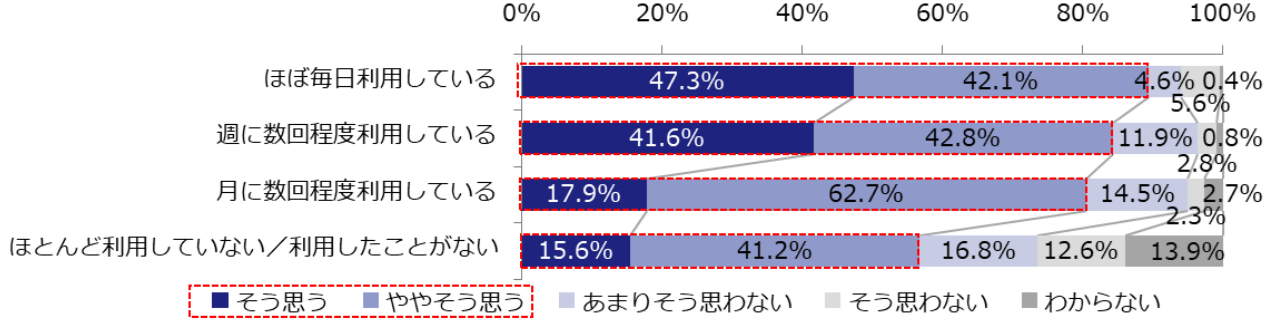
これらの結果から、生成AIなどのデジタルリテラシーの高い人材を求める企業においては、テレワーク制度をはじめ、働く場所を自律的に選べる環境を整備することが重要である可能性が示唆された。

【図表10】＜生成AIの利用状況別＞就職先を選ぶ際のテレワーク重視度



集計対象：AIの利用状況「わからない」を除く

【図表11】＜生成AIの利用状況別＞サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合



集計対象：AIの利用状況「わからない」を除く

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

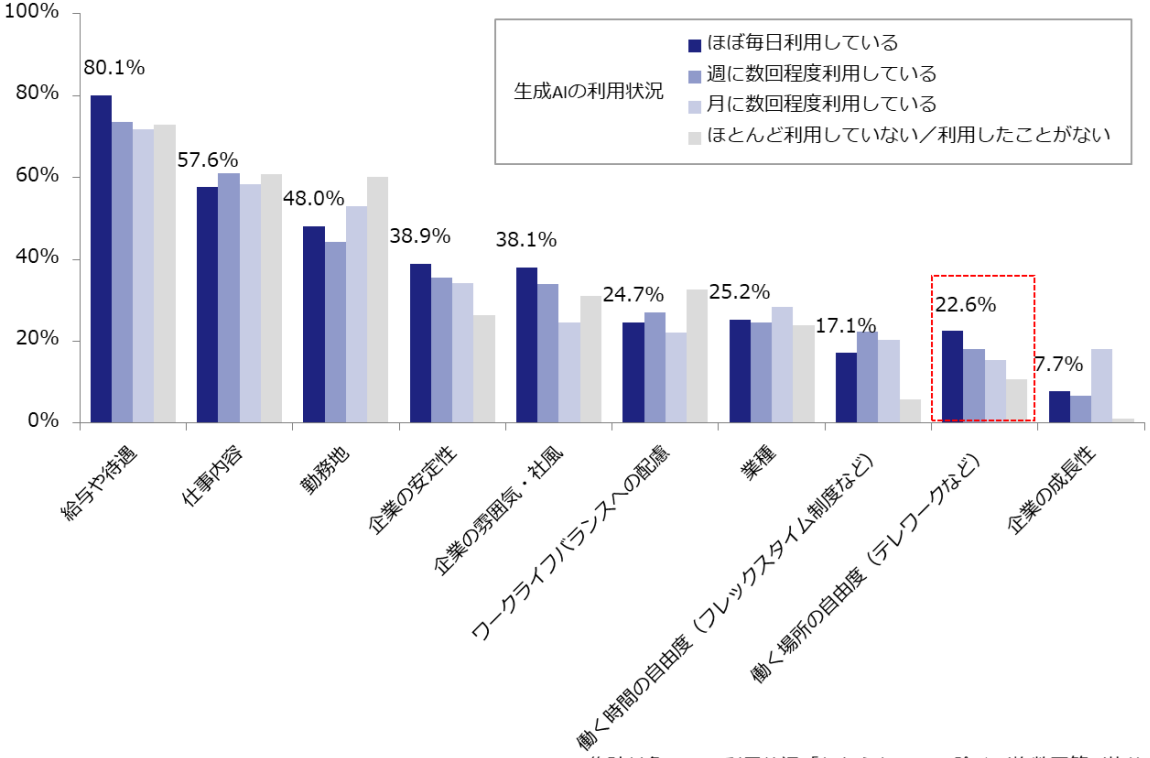
生成AIの利用頻度が高い就活生は、企業に対して多くの条件を求めている

生成AIの利用状況（【図表9】）別に、企業を選ぶ際に重視する条件を比較したところ、項目ごとに傾向の違いがみられた【図表12】。

全体として、「給与や待遇」や「仕事内容」などの基本的な条件は、いずれのグループにおいても高い割合を占める一方、一部の項目では、生成AIの利用頻度によって回答割合に差がみられる。

なかでも「ほぼ毎日利用している」グループでは、「給与や待遇」に加え、「働く場所の自由度（テレワークなど）」の重視度が他のグループを上回っている。生成AIを日常的に活用している就活生は、就業条件、とりわけ働き方に関する柔軟性への関心が相対的に高いことがうかがえる。

【図表12】＜生成AIの利用状況別＞就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



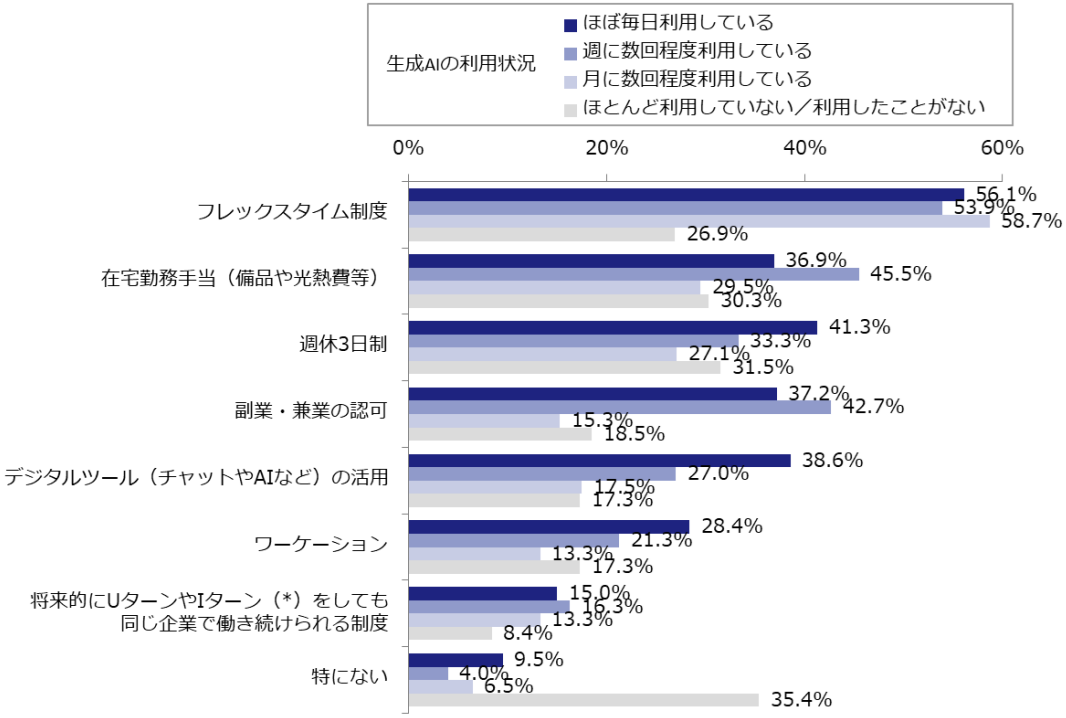
集計対象：AIの利用状況「わからない」を除く／複数回答／抜粋

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

生成AIの利用頻度が高い就活生ほど、さまざまな働き方の施策を求めている

生成AIの利用状況（【図表9】）別に、就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策を比較したところ、利用頻度が高いグループほどさまざまな施策を求めている傾向がみられた【図表13】。

【図表13】＜生成AIの利用状況別＞就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策



集計対象：AIの利用状況「わからない」を除く／複数回答／抜粋
＊Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

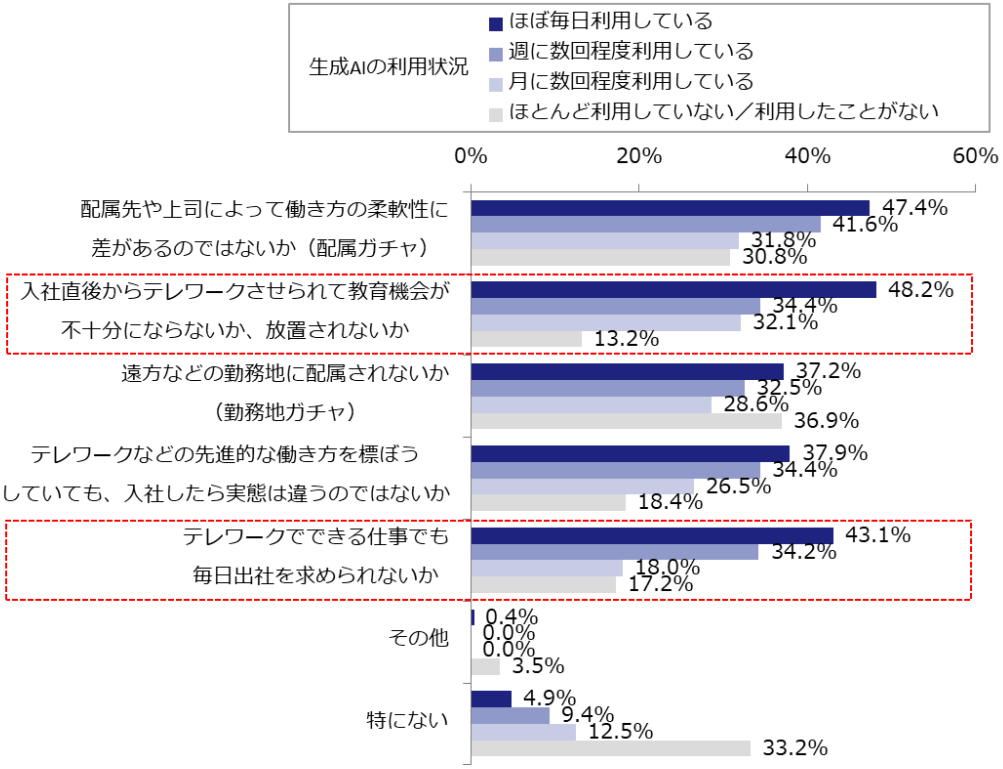
生成AIの利用頻度が高い就活生は「テレワーク放置」など多くの不安を感じている

生成AIの利用状況（【図表9】）別に、企業選びにあたって不安に感じていることを比較したところ、多くの項目で、生成AIの利用頻度が高いグループほど回答割合が高い傾向がみられた【図表14】。

なかでも、「入社直後からテレワークさせられて教育機会が不十分にならないか、放置されないか」や「テレワークでできる仕事でも毎日出社を求められないか」といった項目は、生成AIの利用頻度との相関が比較的強く、「ほぼ毎日利用している」グループではいずれも回答割合が4割を超えた。

生成AIの利用頻度が高い層は情報感度が高く、就活の情報収集にも積極的であると考えられる。その結果、企業の制度や運用の実態に対して具体的なイメージを持っており、より不安を感じやすくなっている可能性がある。企業側には、制度の有無だけでなく、実際の運用や育成の考え方を丁寧に発信し、就活生の不安を解消していく姿勢が求められるだろう。

【図表14】＜生成AIの利用状況別＞企業選びにあたって不安に感じていること



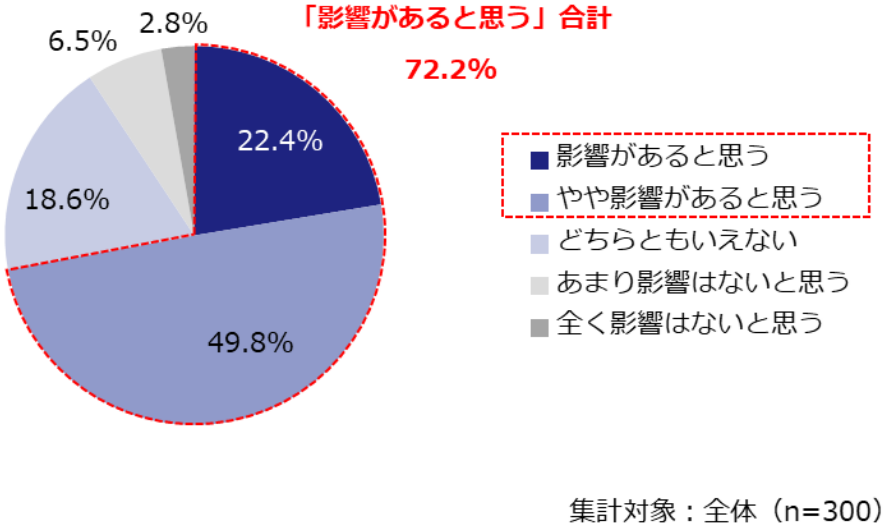
集計対象：AIの利用状況「わからない」を除く／複数回答

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

DX化（生成AI活用やロボット導入など）による仕事やキャリアへの影響：「あると思う」が72.2%

就職後、DX化（生成AI活用やロボット導入など）による自身の仕事やキャリアへの影響があると思うかを聞いた結果、「（やや）影響があると思う」と回答した割合は72.2%であった【図表15】。

【図表15】DX化による自身の仕事やキャリアへの影響

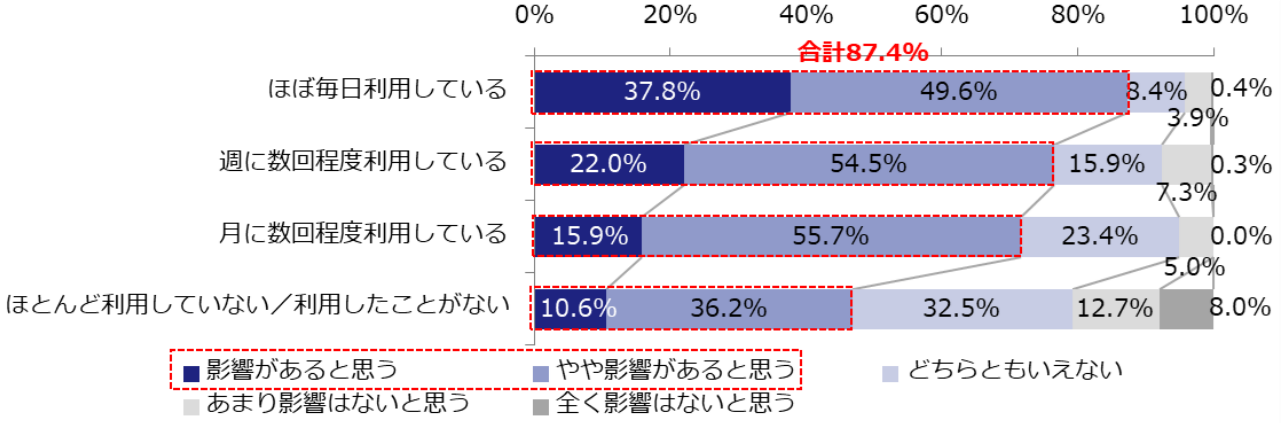


© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

生成AIの利用頻度が高いグループほど、DX化の影響を強く感じている

【図表15】の結果を、生成AIの利用状況別に比較した結果、利用頻度が高いグループほど、DX化による自身の仕事やキャリアへの影響が「（やや）あると思う」と回答した割合が高い傾向がみられた【図表16】。「ほぼ毎日利用している」グループでは87.4%に上った。

【図表16】＜生成AIの利用状況別＞DX化による自身の仕事やキャリアへの影響



集計対象：AIの利用状況「わからない」を除く

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

「将来的にノンデスクワークに従事することに興味あり」は約5割

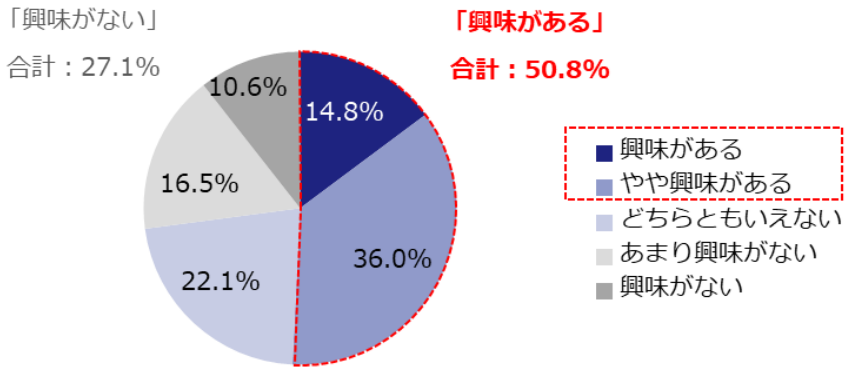
近年の社会情勢を踏まえ、将来的にノンデスクワーク（※）に従事することに興味はあるかを聞いた結果、「（やや）興味がある」の回答割合は50.8%であった【図表17】。

本調査では志望業界や職種は尋ねていないが、日本の雇用慣行を踏まえると、調査対象者である大学生・大学院生の多くはデスクワークへの就職を前提に就職活動を行っていると考えられる。その意味で、過半数がノンデスクワークにも関心を示している点は注目に値する。

なお、全国のオフィスワーカーを対象にした調査（*）における同様の設問では、「（やや）興味がある」の回答割合は35.3%であり、就活生の方が高い結果となった。

* 2025年11月21日公表「大都市圏オフィスワーカー調査2025」

【図表17】将来的にノンデスクワークに従事することへの興味度



集計対象：全体（n=300）

設問全文：労働人口減少や健康寿命の延長により、60歳以降も働き続ける人が増えています。なかでもノンデスクワーク（※）は、AIなどで効率化が進むデスクワークと比べて従事者不足が深刻化し、労働需要が高まると予測されています。需要が高まると処遇改善が見込まれ、米国では一部ノンデスクワークとデスクワークの賃金の逆転といった現象もみられています。上記のような社会情勢を踏まえ、将来的にノンデスクワークに従事することに興味はありますか？お気持ちに最も近いものをお選びください。
※ノンデスクワークとは、主に現場や対人の場で行う職業を指す。医療・介護、保育、設備管理、物流、販売、サービス、警備、清掃、建設作業など、生活や社会を支える幅広い職種が含まれる。現場での実践を通じて専門的なスキルを習得しやすく、いわゆる「手に職」として長期的に活かせる点が特徴である。

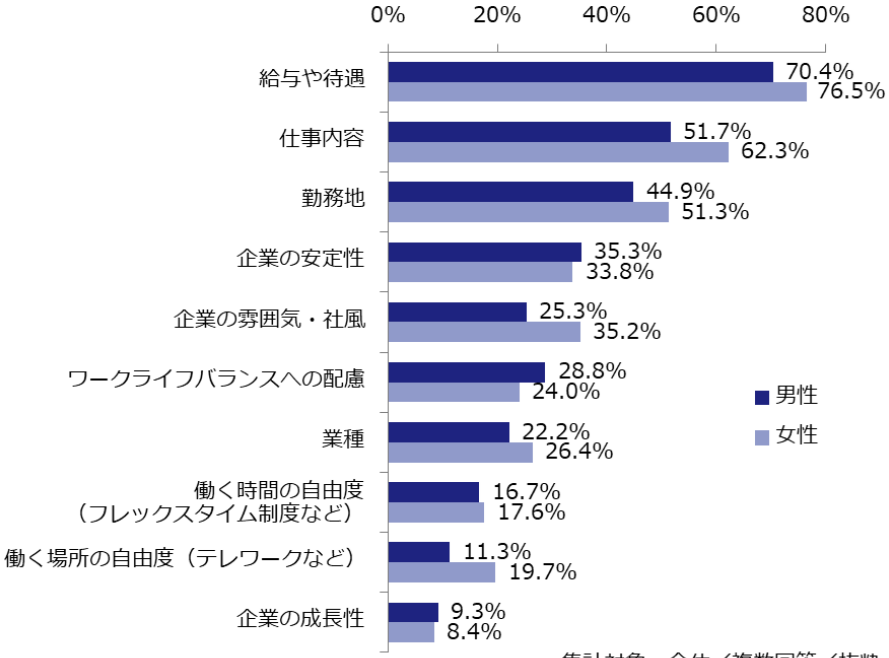
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

3．＜資料編①＞男女別による特徴

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

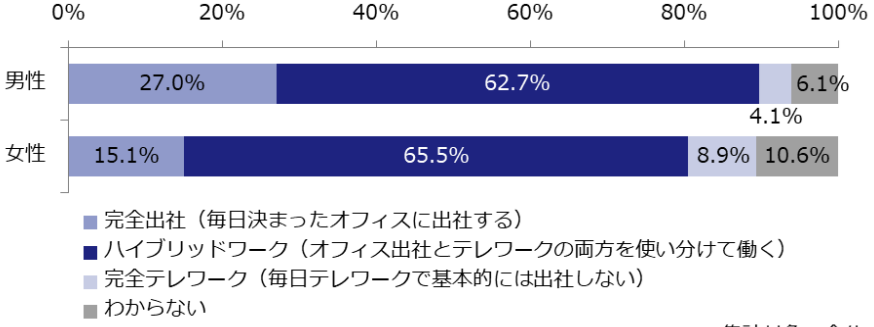
「サテライトオフィスがある企業で働くことを魅力的だと思う」女性は8割超、男性より高い【図表20】

【図表18】 ＜男女別＞就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



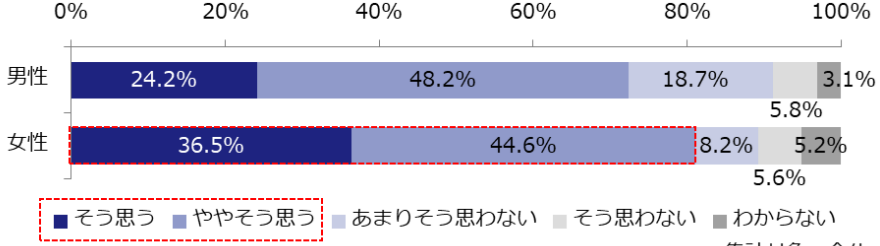
集計対象：全体／複数回答／抜粋

【図表19】 ＜男女別＞理想の働き方



集計対象：全体

【図表20】 ＜男女別＞サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合

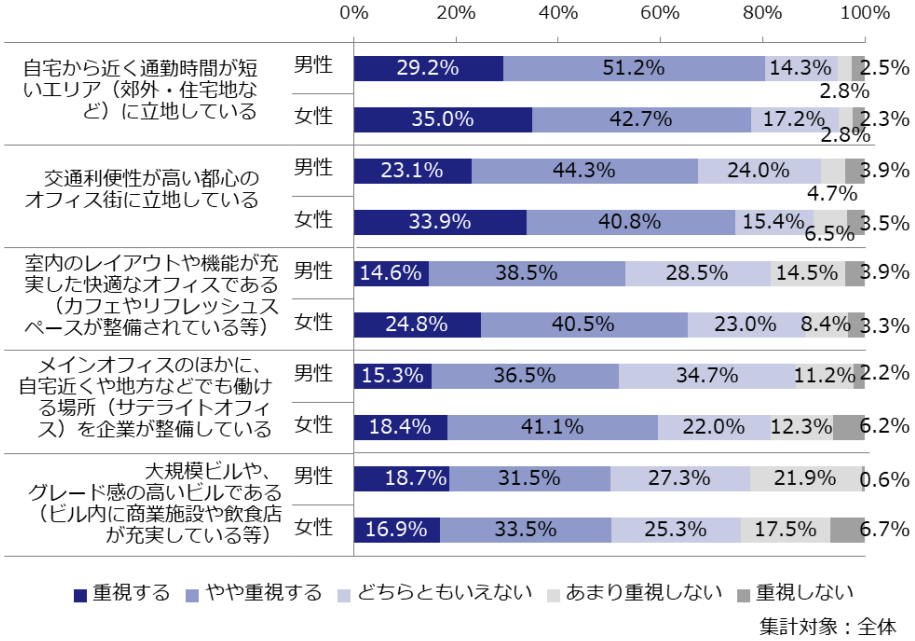


集計対象：全体

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

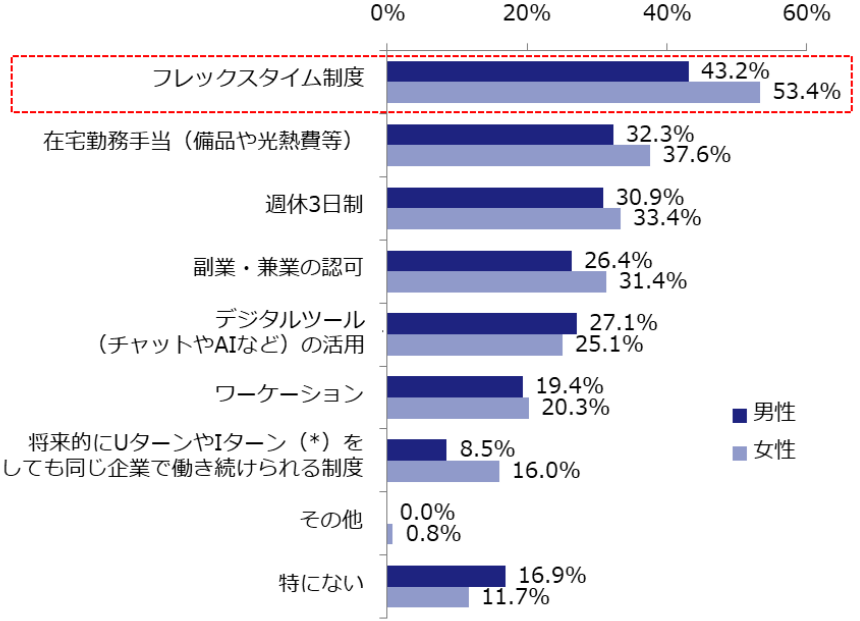
女性はより多くの施策を求めており、特に「フレックスタイム制度」のニーズが高い【図表22】

【図表21】＜男女別＞オフィスの条件で重視すること



集計対象：全体

【図表22】＜男女別＞就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策



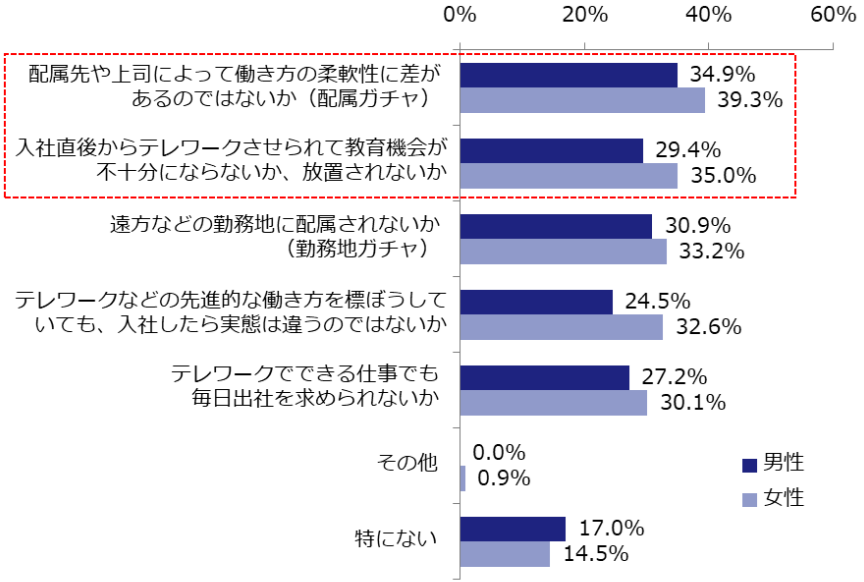
集計対象：全体／複数回答

＊Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

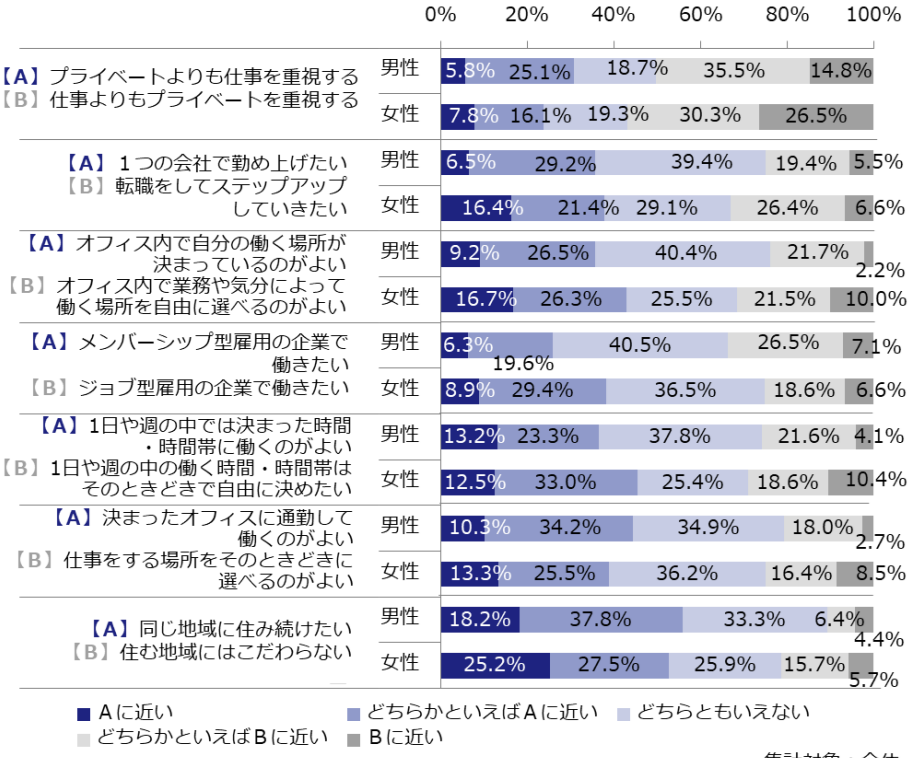
女性はより多くの不安を感じており、特に「配属ガチャ」や「テレワーク放置」が高い【図表23】

【図表23】＜男女別＞企業選びにあたって不安に感じていること



集計対象：全体／複数回答

【図表24】＜男女別＞働くことに対する意識や価値観



集計対象：全体

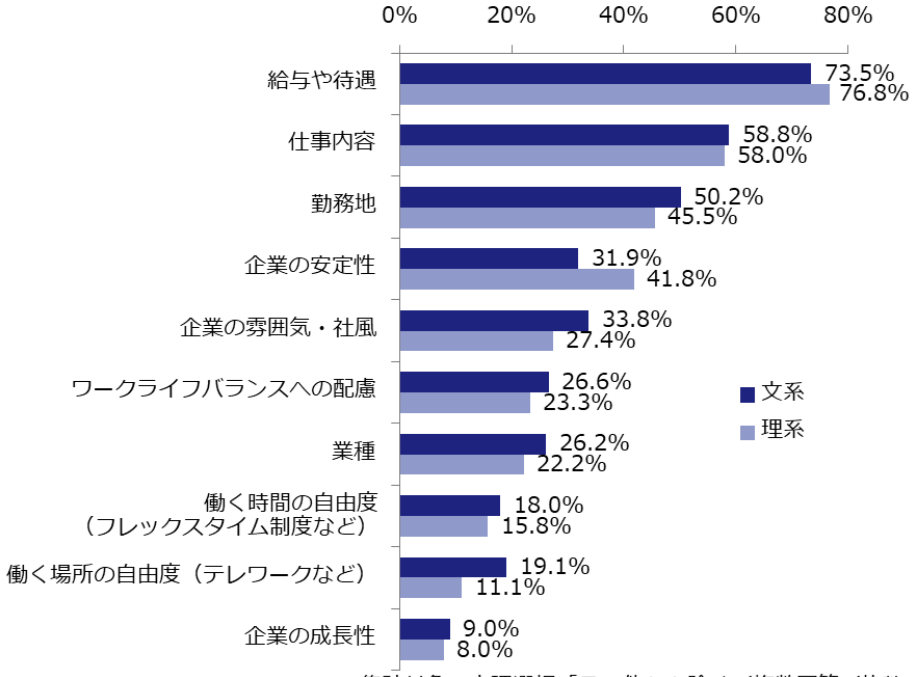
© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

4. ＜資料編②＞文理選択別による特徴

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

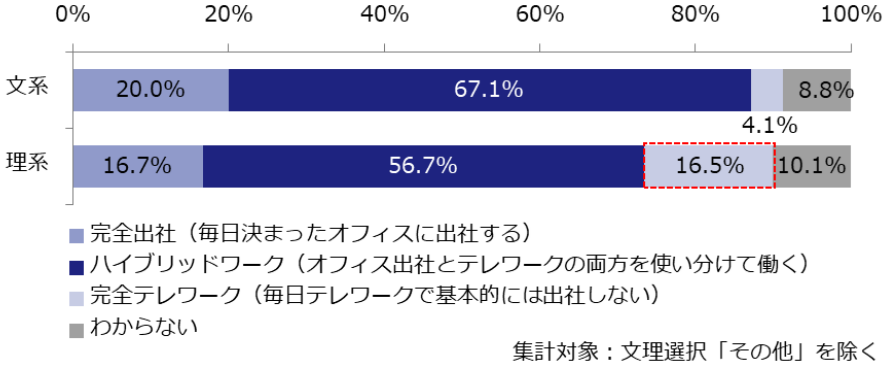
理系学生の方が、完全テレワークやサテライトオフィスへの関心が高い【図表26,27】

【図表25】 ＜文理選択別＞就職活動で企業を選ぶ際に重視する条件



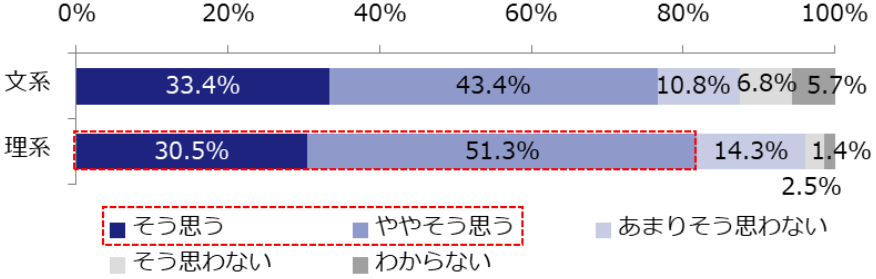
集計対象：文理選択「その他」を除く／複数回答／抜粋

【図表26】 ＜文理選択別＞理想の働き方



集計対象：文理選択「その他」を除く

【図表27】 ＜文理選択別＞サテライトオフィスなどを用意している企業で働くことを魅力的だと思う割合

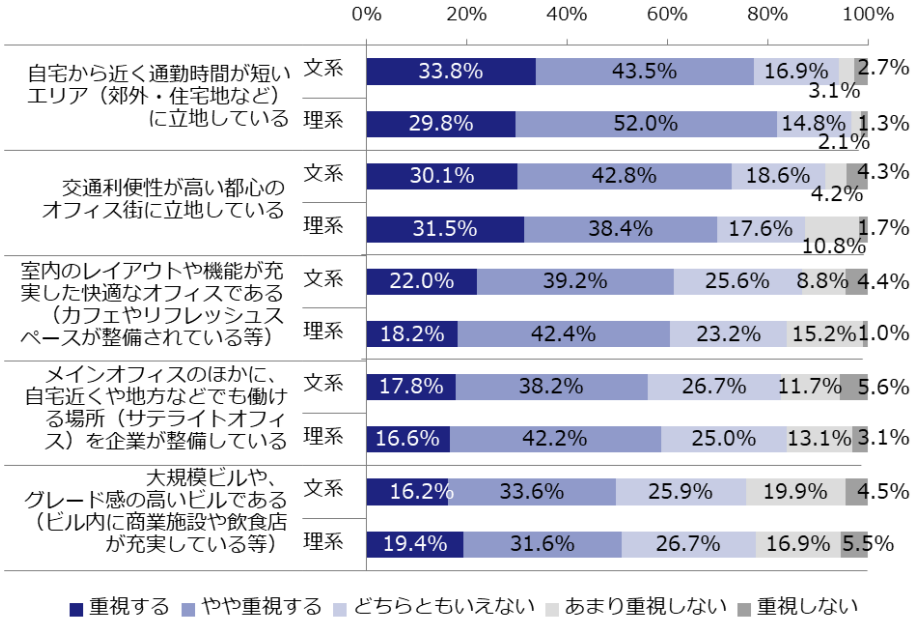


集計対象：文理選択「その他」を除く

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

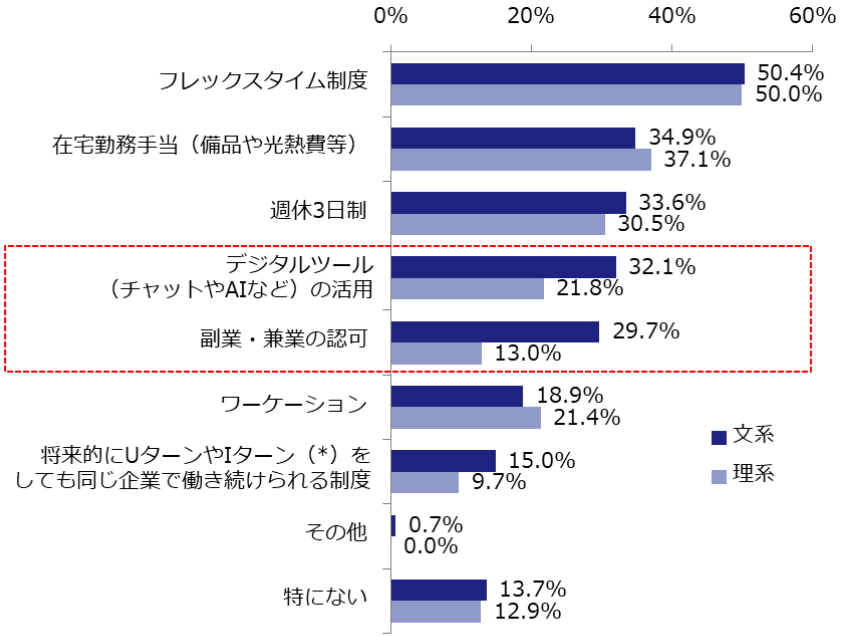
文系学生は「デジタルツールの活用」や「副業・兼業の認可」へのニーズが強い【図表29】

【図表28】＜文理選択別＞オフィスの条件で重視すること



集計対象：文理選択「その他」を除く

【図表29】＜文理選択別＞就職先の企業で導入していてほしい働き方の施策



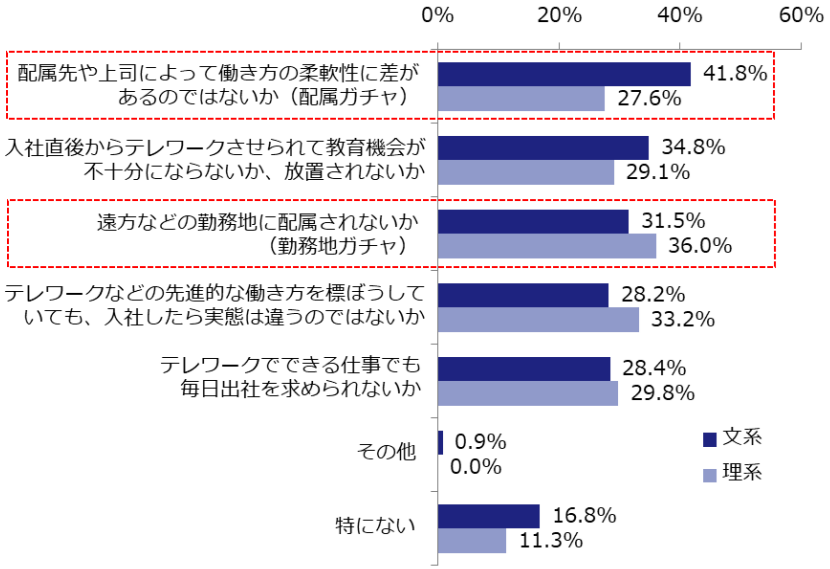
集計対象：文理選択「その他」を除く／複数回答

* Uターンは出身地に帰ること、Iターンは出身地以外の地方に移住すること

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.

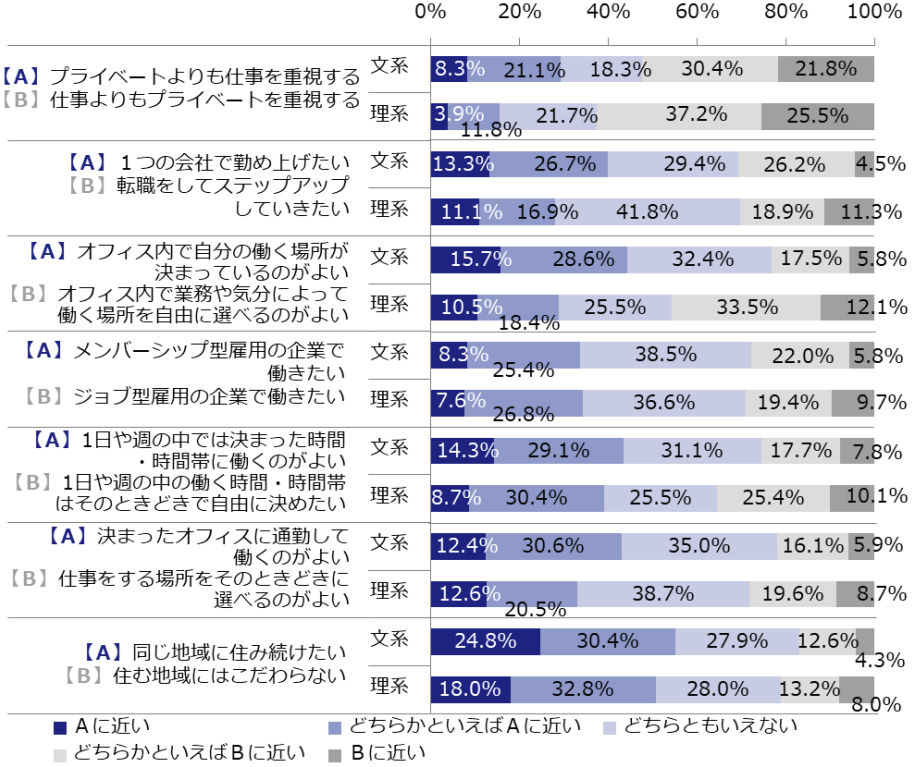
文系学生は「配属ガチャ」、理系学生は「勤務地ガチャ」を不安に感じている【図表30】

【図表30】＜文理選択別＞企業選びにあたって不安に感じていること



集計対象：文理選択「その他」を除く／複数回答

【図表31】＜文理選択別＞働くことに対する意識や価値観



集計対象：文理選択「その他」を除く

© 2026 XYMAX RESEARCH INSTITUTE Corporation. All rights reserved.